

いのち憩う所

主は絶えず、あなたを導いて、焼けつく土地でも、あなたの思いを満たし、あなたの骨を強くする。
あなたは、潤された園のようになり、水のかけない源のようになる。(イザヤ58:11)

道 Column

永遠の報い

もし「一日」という時間が与えられて、石を拾った分、金塊と交換してあげようと言われれば、どうするでしょうか？

真夜中の零時から始めて、夜12時になる前の最後の1分まで、こまめに石を運ぶでしょう。他の約束もキャンセルして、食事や休む時間も惜むでしょう。なぜなら、その一日の働きに応じて「どれほど金持ちになるか」が決まるからです。

天の報いもこれと同じです。私たちの魂が召されるその日まで、どう生きるかに応じて永遠の報いが決まるのです。この望みがある人は、寸時を惜しんでイエス・キリストの愛を伝えることに努めます。

文：イ・ジェロク牧師 ハンギョレ新聞連載コラム「道」より

イエス・キリスト大韓連合聖潔教団 「第18回定期総会および牧師按手式」

新生、聖潔、神癒、復活、再臨の五重福音で民族福音化と世界宣教を目指すイエス・キリスト大韓連合聖潔教団「第18回定期総会および牧師按手式」が、6月30日と7月1日に万民中央教会の本聖殿であった。

初日は、1部の開会礼拝の後、2部の議会で開会宣言朗読、案件通過、建議案および請願書受理、2009年度予算案審議などがあり、民族福音化と世界宣教の使命を果たす決意を固めた。

二日目は、総会長イ・ジェロク牧師の司式でチョン・グヨン、イ・ヒジン(以上本教会)、ハン・ジンボム(ケニア・ナイロビ万民教会)、計3名の牧師按手式があり、芸能委員会所属のハレルヤ宣教団の祝いの歌とニシ・オーケストラの演奏で神様に栄光を帰した。

総会長イ・ジェロク牧師は「信仰の戦い」(第二テモテ4:7-8)というメッセージを伝え、使徒パウロのように信仰の戦いを勇敢に戦うには「忍耐と信仰がなければならぬし、報いを望んで進んでいくべき」で、「徹底的に自我を否認して主が人生の主人になられ、神様に栄光を帰して称賛を受ける牧師になってほしい」と語った。

東京万民教会創立礼拝



7月6日(日)、日本の14番目の支教会、東京万民教会(担任:チェ・ビョンナン伝道師)創立礼拝があった。

講師イ・ジュンウォン牧師は「北と南、東と西を見渡しなさい」というメッセージを伝え、飯田万民教会の賛美チームと、ソウルの本教会のジン・ソル兄弟が特別賛美をささげ、参加した人々はさらに恵みに満たされた。また、長老教会のキム・ヨンヒ牧師と、横浜鶴見福音教会の前田実隆牧師が祝辞を述べ、創立を祝った。

今後、東京万民教会を通して東京に大リバイバルが起きるよう期待する。

信州リバイバル宣教会・教職者祈禱会と親睦会

去る7月14日～15日、長野県安曇野市明科にある「天平の森」にて『信州リバイバル宣教会・教職者祈禱会と親睦会』が素晴らしい天気の中で行われた。

信州リバイバル宣教会(会長:柳 承吉牧師)は「日本の真ん中に位置する信州(長野県)から日本全国にリバイバルの火が燃えるように」と長野県にある他教派の教会によって結成され、集まった教職者たちは、心を一つにして信州と日本のリバイバルのために熱く祈った。

到着した14日には、標高920メートルの高台にとんぼが現れ、また、翌15日には、青く澄んだ空に、透き通るほどのきれいな虹を見せてくださって、牧者の空間で一つであり、この集まりを祝福してくださっている事を、参加者全員が喜んだ。

信州リバイバル宣教会には信州のリバイバル以外にもビジョンがある。それは、「魂を導く教職者の霊的な成長」である。聖潔の福音で恵みと力、霊の世界を体験した事のある教職者がほとんどで、『聖潔の福音による更に深い学び』を望んで、『牧会者セミナー』を希望して、「一日でも早くセミナーを実現したい」という声が上がリ、そのためにも祈った。

日本の宣教は『聖潔の御ことばと牧者に現れる神の力による』事を改めて確認し、有意義な二日間を過ごした。



Manmin Central Church

website: www.manmin.org
Tel: 82-2-818-7042, 7063
Fax: 82-2-818-7048
e-mail: ksy8187042@yahoo.co.jp



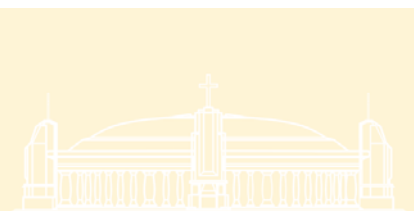
MANMIN TV

website: www.manmintv.org
Tel: 82-2-824-7107
Fax: 82-2-813-7107
e-mail: info@manmintv.org



WCDN World Christian Doctors Network

Website: www.wcdn.org
Tel: 82-2-818-7010
Fax: 82-2-851-3846
e-mail: hwang1923@empal.com



日本各支教会(4 連絡先参照)

「十字架の道」シリーズ(27)

燃える蛇と十字架

「……すると、主はモーセに仰せられた。『あなたは燃える蛇を作り、それを旗ざおの上につけよ。すべてかまれた者は、それを仰ぎ見れば、生きる。』モーセは一つの青銅の蛇を作り、それを旗ざおの上につけた。もし蛇が人をかんでも、その者が青銅の蛇を仰ぎ見ると、生きた。」(民数記21:4-9)

今回は、イスラエルの民が荒野で体験した燃える蛇の出来事において、私たちが悟るべきことと、イエス様の十字架とどんな関係があるのかを調べます。これで「十字架の道」シリーズを終わりにいたします。

1. 神様とモーセにつぶやいて、燃える蛇の出来事を体験したイスラエルの民

本文の<民数記21章>は、イスラエルの民がエジプトを出た後に起きた出来事です。イスラエルの民はエジプトで40年間、つらい奴隷の身であって、神様に自分たちを救ってくださいと叫びました。神様はモーセを遣わし、驚くべき神の力を現すようにされて、彼らをエジプトの奴隷の身から解放してくださいました。

イスラエルの民は、エジプトの地を抜け出せば、すぐに乳と蜜の流れる地に入れるだろうと期待しましたが、目の前の現実とは全く違いました。神様は、民が祝福の地に入る資格を備えるように、荒野の生活をするようにさせましたが、彼らは悟れなくて、問題にぶつかるとつづやいたり、恨んだりしたのです。結局、信仰が見せられなかったのです。40年間、荒野で練られなければならなかったのです。

エジプトの奴隷の身からせつかく解放してもらったのに、民は、神様が荒野で自分たちを死なせようと言いつつ、神様が下さったマナを「みじめな食物」だと言って、つぶやきました(民数記21:5)。これによって神の怒りが臨むと、致命的な毒を持った燃える蛇にかまれて、死んでいきました。

民はその時はじめてモーセのところに来て、悔い改めました。モーセが民のために祈ると、神様は災いを免れる方法として、青銅の蛇を作って、旗ざおの上につけて仰ぎ見るようにされました。モーセが青銅の蛇を作り、それを旗ざおの上につけると、これを仰ぎ見た人は、燃える蛇にかまれたとしてもいのちが助かりました。

2. 燃える蛇の出来事で悟るべき霊の教訓

1) 私たちにどんな問題があるかと、神様の前で解決されなければなりません。

神様は人の子らの生死禍福と万物をつかさどられる、全知全能の方であられます。燃える蛇が出て来るようにもされ、燃える蛇の災いから救ったりもされました。この時、それまでいかなかった燃える蛇が突然出て来たのではありません。もともと荒野には、燃える蛇とさそりがたくさんいたのですが、神様が守ってくださったので、民に近づくことができなかったのです。ところが、神様につぶやいたので、これ以上守られなくて、燃える蛇に害を加えられるようになったのです。

したがって、イスラエルの民は燃える蛇という問題の原因とその解決を、神様から見つけなければなりません。同じように、人がこの地上でぶつかるすべての問題も、神様の前に解決されなければなりません。

ここで「燃える蛇」とは、敵である悪魔・サタンを意味します。<創世記3:14>で、神様が女を惑わした蛇に「一生、ちりを食べなければならぬ。」と言われました。ここで「ちり」とは、土地のちりから造られ、罪を犯して肉に帰ったアダムとその子孫のことを言います。アダムが罪を犯した後、蛇、すなわち、敵である悪魔は、罪の中に生きる肉の人々を餌食にして、試練や患難をもたらすのです。

世の人々は事故や病気、困難にあえば、自分の運命や偶然のせいになりますが、神の子どもたちは根本的な原因を悟って、問題を解決しなければなりません(第一ヨハネ5:18)。イスラエルの民が自分の罪を悔い改めてモーセの



堂会長イ・ジェロク牧師

ところに来たように、自分の過ちを悔い改めて、神様のところに出て来なければなりません。誰でも心を砕いて罪を告白し、罪の隔ての壁を壊して光の中に出て来る時、神様はどんな問題でも解決してくださいます。

2) 信仰の訓練を受けるとき、ただ感謝と喜びで受けなければなりません。

神様は、ご自分の子どもたちが訓練を受けることを許されて、純金のような信仰を持って祝福される器を備えるようにさせました(ヤコブ1:4)。昔の信仰の人々も、神様が約束された祝福を受けるまでは、長い間いろいろな苦しみを経て、訓練の歳月を送らなければならなかったのです。

イスラエルの民が荒野で練られたのも、結局は祝福の地、カナンを得るための過程でした(申命記8:15-16)。彼らが神様を信じて信頼したならば、つぶやくよりは、祝福してくださいださる神様の愛に感謝して、自分の姿を変えさせるべきでした。

私たちが感謝と喜びで訓練を受ければ、必ず約束の地、カナンに入れます。訓練の中で祝福される器を備えて、試練を通り抜けて信仰を示すとき、神様が祝福を下さっても、敵である悪魔・サタンが訴えられないのです。

しかし、つぶやいて不平を言えば、祝福はおろか、訓練が長くなるだけです。それだけでなく、感謝できないこと自体が信仰がないこと、祝福される器になっていないことの証拠です。

3) 青銅の蛇を見て信仰を持つようにされた神様の愛を悟らなければなりません。

イスラエルの民が燃える蛇にかまれたとき、旗ざおの上につけられた青銅の蛇を仰ぎ見て、はじめて生きられました。それならば、全能の神様が、青銅の蛇を見ないで御力だけで治るようになることはおできにならなかったのでしょうか？ もしイスラエルの民が百人隊長のように「ただ、おことばをただかかせてください。」という信仰だけあったとすれば、「いやされよ」と言われるだけでもよかったでしょう(マタイ8:8)。

しかし、このような信仰が民にはなかったのです。神の力がいくら大きくても、信じられなければ何の役にも立たないので、信じられるように目に見える信仰のひな型を与えてくださったのです。自分たちに害を加えた燃える蛇が旗ざおの上につけられているのを見ると、神様が燃える蛇の災いから救ってくださったことが、さらに具体的に心に信じられたからです。

今日、本教会が不思議とする神様の生きておられる証拠を現さなければならぬのも同じです。<ヨハネの福音書4:48>の「あなたがたは、しるしと不思議を見ないかぎり、決して信じない。」というみことばどおり、聖書に記された創造主の神様と救い主イエス・キリストを信じなさいと叫んでも、頑なな人々は信じようとしません。

はなはだしきは、神様を信じる人々も、世と妥協してみことばどおり生きられない場合が多いのです。しかし、人としてはできない神の力を見て聞いて体験すれば、信じない者でももっと神様を認めやすく、聖徒たちもまことの信仰を持つようになり、みことばどおり生きられます。

3. 旗ざおの上につけられた青銅の蛇を仰ぎ見て、救われるようにされた神様の摂理

「モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。それは、信じる者がみな、人の子にあつて永遠のいのちを持つためです。」(ヨハネ3:14-15)というみことばは、イエス様の十字架の出来事を意味します。罪のないイエス様が私たちの罪を贖うために、燃える蛇が旗ざおの上につけられたように、十字架につけられたのです。

「蛇」とはサタンを意味します。それでは、旗ざおの上につけられた蛇を見るように、十字架につけられたイエス様を仰ぎ見るとはどんな意味なのでしょう？

イエス様が十字架につけられたことが、つまり、敵である悪魔・サタンの滅びを意味するからです。私たちが十字架につけられたイエス様を仰ぎ見ることは、敵である悪魔・サタンの死の力が打ち破られたことを信仰の目で見つめることです。ですから、それを信じる時、永遠のいのちを得るのです。

霊の世界の法則によると、「罪から来る報酬は死」ですから、アダムが罪を犯した後、罪人になったアダムとその子孫は、みな死の刑罰を受けるようになりました。すなわち、死の支配者、敵である悪魔・サタンの権力の下であらゆる試練や患難にあい、死ねば世々限りなく地獄の刑罰を受けるのです。

このような人類を救うために、イエス様がこの地上に来られました。ところが、敵である悪魔・サタンは悪い人々を操って、何の罪もないイエス様を十字架につけて殺したのです。イエス様を殺したら、自分たちが死の力を永遠に持つと思ったのですが、結局、敵である悪魔・サタンは死の力を奪われました。

霊の世界の法則によると、死の刑罰は罪人にだけ当てはまります。しかし、敵である悪魔・サタンは霊の世界の法則を破って、原罪も、自ら犯した罪もないイエス様を殺しました。その代価として、イエス様を救い主と信じる人々を渡すしかなかったのです。したがって、十字架につけられたイエス様を救い主と信じれば、誰でも救われ、主の御名を信じて祈るとき、すべての試練や患難からも解放されるようになったのです。

イスラエルの民のうち、聞き従って旗ざおの上の蛇を見た人は生きましたが、頑なで聞き従わない人は燃える蛇の毒によって死ぬしかありませんでした。同じように今日も、イエス・キリストを受け入れれば救われますが、信じない人は救われなくて、地獄に行くのです。

愛する聖徒の皆さん、

人類を救うために尊いひとり子まで渡してくださった愛に感謝して、すみやかに主に似せられていき、この地上でも祝福されて、天でも永遠の栄光の中にとどまれますよう、主の御名で祝福して祈ります。✠



息子、娘のような弟子たちに 主の愛と幸せをプレゼントします

イ・グァンギョ執事(ガンウォン大学造園学科助教授、チュンチョン万民教会)



弟子たちと一緒にのイ・グァンギョ助教授(左側)

この世には人間の能力を超えた力があります。それは創造主の神様の力で、これを体験した人だけがわかります。

私は17年間慢性鼻炎で苦しんでいました。とても敏感で、エアコン、ストーブの前では鼻の粘膜がはれて、風邪を引いても息をすることさえ苦しかったのです。鼻が詰まると講義がしにくくて、研究の時は集中力がひどく落ちました。講義や会議がある時は、始まる前に鼻炎用スプレーを使っていました。けれど、効果はほんのしばらくでした。医学で治療できなくて、まるで宿命のように生活の一部として背負い込んで生きていました。

そんな私に神様の恵みが臨みました。5月30日、ソウルの本教会であった「特別いやし集会」に参加して堂会長先生の按手の祈りを受け、慢性鼻炎が完全にいやされたのです。祈りを受けた瞬間、鼻がすーっと通って、今まで何の異常もありません。いつもかばんの中にあった鼻炎の薬も全部なくなりました。

私が神様に会ったのは、ただ神様の憐れみとしか説明できません。2006年の春、母(シン・グムニョン執事)の切なる勧めで本教会に来ましたが、その時私は先入観がありました。他の教会で信仰生活をしてきた私には、母が度が過ぎるほど教会にはまっているようで、ちょっと心配でした。それで、礼拝の時、もしかして間違っていることはないかと、集中してメッセージを聞きました。ところが、何週間か堂会長先生のメッセージを聞いてみたら、それは信仰生活の本質を

母の伝道で教会に出席

先入観が壊されてまことの希望を見つけた

堂会長先生の按手の祈りで
17年間苦しんでいた慢性鼻炎がいやされた

キリストの香りを放って

弟子たちに安らぎを与える教師になりたい

掘り下げるようなメッセージだったので。ただ信じるのではなくて、神様が人を造られた目的と、信仰の段階に応じて入る天国の場所を詳しく説明してくれました。その時、まるで天国が手に取れるようで、未知の世界を知る喜びを感じました。

いつの間にかメッセージの時間が待ち遠しくて、主日礼拝はもちろん、金曜徹夜礼拝と水曜礼拝まで参加しました。完全な十分の一献金をささげて祈りの生活を始めました。人と交わるために覚えた酒とタバコもやめました。

細かいことも神様に申し上げてお尋ねしました。すると神様は体験を通して、神様が悪をどれほど嫌われるか悟らせてくださいました。

私は敏感で、いつも完璧を求める人でした。それで、本教会に来る前は、私の主張が強くて妻とささいなことで口論したりしました。もし神様に会おう前に教授になっていたら、私のために多くの学生が傷ついたでしょう。

2007年3月、ガンウォン大学造園学科の助教授として発令されました。私の

研究室の壁には、聖書のみことばの額がたくさんかけてあります。それは、私の人生が神様のものだという告白でもあります。すべてのことに明るくて肯定的な人になって、前よりもっと一生懸命に働いていますが、それは成功のためではありません。ただクリスチャンとして模範になってこそ、周りの人を神様に導く近道だと思っからです。

私は、神様が下さったタラントである造園を用いて、神様の聖殿を美しく飾りたいと思っています。また、私を信じてついてくる息子、娘のような弟子たちを天国に導きたいです。それだけでなく、神様が直接つかさどって支えてくださる神の人になりたいと願っています。私の力でできることではないので、すべてを神様にゆだねて祈ります。

このような私の心をよく知っておられる神様は、昨年、新任の私にまじめで誠実な学生たちを送ってくださいました。その結果、良い研究実績が出て、研究課題もあふれるほどありました。それで、研究で得た収入で学生たちの学費と研修費も支援でき、海外のフィールドワークも一緒に行けました。喜ぶ学生たちを見て私も幸せでした。弟子たちに何が必要なのかいつも顧みて、何でもしてあげたいし、彼らが頼れるいこの木陰になりたいです。

愛を受けるばかりだった私を、今はその愛を分かち合える人になるように導かれた神様に感謝します。キリストの香りを放って、尊い主の愛を伝える人になりたいです。

惜しまず与える木、 イ・グァンギョ助教授

こんにちは! 環境計画・設計・評価研究室の学生、イ・ジョンファン、コ・ドンソプ、キム・ミンソン、キム・ジョンミ、イ・ガンヒョン、チョンソヒ、イ・ヘジ、ジョン・ヒョジンです。

私たちは木を一本持っています。惜しまず与える木、イ・グァンギョ先生です。大学生活で一番意味あることが何かと聞かれるなら、私たちはみんな一斉に「先生に出会ったことです」と答えるでしょう。

たぶん先生は、去年の初め私たちに会ってから、はるかに忙しくなられたでしょう。学問の道を開くこと以外にも、いつも見守って信じてくれる父のような方です。時には悩みの相談にのってくれる友だちだし、アドバイスを惜しまない兄のようでもあります。昼も夜も忙しい研究室でも笑いを失わないし、ひょっとして研究員の体の具合が悪くないかいつも心配して、自分のための祈りよりは、私たちのために祈ってくれる先生を尊敬しています。

いつも学生の助けになる道だと思えば、ちょっと大変でもその道を選んで、私たちに機会を与えてくださいました。誰よりも朝早く来る先生に見習えなくて申し訳ないです。こんな私たちの心まで思いやってくれるひとと言ひと言からも、学ぶことが多いです。

今受けているこの愛を忘れないで、正しくて大きい人になって、もっと大きな愛で報いたいと思っています。

愛しています。先生!

第15回『東京国際ブックフェア』に参加して

ユ・スングル牧師(飯田万民教会)



7月10日(木)~13日(日)、東京ビッグサイトにおいて『東京国際ブックフェア』が開催されました。今年で15回目となった『東京国際ブックフェア』は、毎年7月に開催されており、

世界30カ国から約770社の出版社が出展し、各出版社の新作本などをPRしました。

日本における文書伝道の働きがきっかけになるとして、ウリム・ブックス、日本代表の形で今回のイベントに参加した私は、堂会長先生の著書(日本語訳)、『死の上がり框で味わう永生』『天国、上・下』『地獄』『私の人生、私の信仰』の5冊を展示、紹介しました。

今回の『東京国際ブックフェア』の参加は神様が共にしてくださり、来年行われるこのイベント(開催・2009年7月9日~7月12日・場所は同じ)に、一つのブースを与えられる祝福を受けました。

『ブックフェア』スタッフは、一つのブースを作る細かな内容まで親切に教えてください、「探し求めるところには、主の備えがある」ことを体験する良い時間となりました。今回の『ブックフェア』参加によって、困惑している日本の多くの魂を救いの道に導く良い機会として、また、牧者の執筆された書籍によってよい書による福音伝道の働きが拡大されていく事を期待してやみません。

来年は、世界各地で現れている神の力が、日本の地にも同じように現れるように祈りつつ『できない事も出来る』ようにしてくださった父なる神様にすべての感謝と栄光を捧げます。ハレルヤ!

MMTC 日本短期宣教報告

6月30日、牧者の祈りを受けて出発したMMTC短期宣教チームは、東京羽田空港に到着して、ユ・スングル牧師をはじめ、日本の牧師たちの暖かい歓迎を受けました。

梅雨なのに晴れていて涼しく、伝道するのにとても良い天気と風を送られ、牧者の神様がともにおられる証拠に、一日も欠かさず虹と五色の雲を見せてくださいました。

今回のMMTC短期宣教を主催した日本福音化教職者会の歓迎会で、日程を始めました。

7月1日、一番目の伝道集会有る東京田端万民教会で、聖徒の皆さんは心一つにして集会を準備してくださいました。宣教チームは一軒一軒訪問して、チラシを配って伝道集会を知らせました。3月にソウルの本教会を訪問された横浜鶴見福音教会の前田実隆牧師の説教と、訓練生の恵みあふれる日本語の賛美、そして強直性脊椎炎がいやされたMMTC16期のイ・ハニョン執事の証し、「神の力」ビデオ上映でさらに恵みに満たされました。

7月2日は、東京から1時間の所にある横浜鶴見福音教会に向かいました。前田牧師夫妻は、MMTC宣教チームが来て伝道してくれることだけでも感謝ですと、幸せそうに集会を準備してください、本教会の協力教会に加入されました。この日の集会は、東京田端万民教会のチョン・ギョント牧師の感動的な説教と、声帯結節がいやされて日本語と英語の通訳者として働いているアン・イェダム兄弟の証しに、参加した人々は恵みを受けました。特にチョン・ギョント牧師と短期宣教チームがハンカチを持って祈ったとき(使徒の働き19:12)、聖霊のみわざを体験した方々は、これから主日も教会に来たいと告白しました。

翌日、八千代万民教会に着くと、担当の青木久尚牧師は、70歳を超えているにもかかわらず、心を尽くして集会を準備しておられました。この日も、伝道する時は涼しい風が吹き、集会の前は空に五色の雲といくつかの十字架のかたちの雲を見せてくださって、日本の魂ひとりでも救いたいと願われる父なる神様の心が強く感じられました。

この日の集会では、ソウルから教団総会と牧師按手式を終えてこられたMMTC訓練院長イ・ジョンウォン牧師の「出会い」というメッセージが伝えられました。参加した神様を信じない人々に、神様に会って病気と問題が解



決されるようにと、やさしいとえをあげて説明してくださいました。メッセージの後、対人恐怖症だった若い女性がハンカチの祈りを受けてよくなったし、一緒に来たお母さんは、変わらない信仰で神様に頼ればもっと完全になると信じて、幸せな心で帰りました。八千代市議会議員も参加して恵みを受け、担任牧師も伝道集会を通して自信を得て、恵みに満たされました。

7月4日、四番目の伝道集会のために、茨城県鉾田市に移動しました。20年間食堂を運営しながらまことの福音を求めているうちに、『万民中央ニュース』を見て恵みを受けて、昨年支教会に加入した鉾田万民教会(代表:飯塚優)に到着しました。一章懸命チラシを配ってから教会に戻ったら、トンボの群れが現れて、飯塚兄弟の家族とユ・スングル牧師の手と顔にとまって、みんな喜びました。飯塚兄弟は、7月からトンボが見られると言われた堂会長先生の話を中心に刻んで、トンボを探していましたが、そのとおりになったのを直接体験して、大きな信仰になったと言いました。

7月6日(主日)、午前は新大久保駅で伝道して集会を知らせ、午後は東京万民教会の周り四谷駅でチラシを配りました。この日は、東京万民教会の創立礼拝と伝道集会がイ・ジョンウォン牧師を講師に迎えてありました。飯田万民教会と東京田端万民教会の聖徒の皆さんも参加して、ともに喜び創立を祝う姿を見て、私たちも幸せでした。

今回のMMTC日本短期宣教で、訓練生たちは伝道しながら魂を愛する熱い心を持つようになったし、現地の牧会者の先生方も、伝道集会を準備しながらともにおられる神様を体験して、できるという自信と力を受けたと告白しました。すべての日程が栄えるように導かれた父なる神様に、すべての感謝と栄光をお帰しします。

MMTC日本短期宣教チーム一同



日本支教会の連絡先

イエス・キリスト 飯田万民教会

担任: 柳 承吉(ユ・スングル)牧師
崔 乘蘭(チェ・ビョンナン)伝道師
山下 好美 牧師
安達 真理子伝道師
住所: 〒395-0807
長野県飯田市鼎切石 3883-4

連絡先: T) 0265-56-8286
F) 0265-56-8287
e-mail: imc@s9.dion.ne.jp
ホームページ: http://iidamanmin.to.cx/

名古屋万民教会

担任: 時國 みや子 伝道師
住所: 〒465-0014
名古屋市名東区上菅 1-916
連絡先: T) 052-774-8874
F) 052-774-8883
e-mail: nago_mhc@maroon.plala.or.jp

イエス・キリスト 山形万民教会

担任: チャン・カンソブ牧師
住所: 〒999-3716
山形県東根市蟹沢 1486-4
連絡先: T/F) 0237-43-0771
e-mail: ymgtjks@gmail.com

イエス・キリスト 別府万民教会

担任: 加藤 勳 牧師
住所: 〒874-0924
大分県別府市餅ヶ浜町 4-41
連絡先: T/F) 0977-23-8980
e-mail: b.manmin@galaxy.ocn.ne.jp

イエス・キリスト 大阪万民教会

担任: キム・マルコ牧師
キム・モニカ宣教師
住所: 〒591-8023
大阪府堺市中百舌鳥町 5-775-15
連絡先: T/F) 072-220-5289
e-mail: osmanmin@hotmail.com

イエス・キリスト 旭川万民教会

担任: 小松 幹 伝道師
住所: 〒071-8144
北海道旭川市春光台4条 3丁目 11-23
連絡先: T/F) 0166-53-0652
e-mail: asa-mhc@hokkaido.email.ne.jp

イエス・キリスト 東京田端万民教会

担任: チョン・ギョント牧師
ソン・アミ宣教師
住所: 〒114-1102
東京都北区田端新町 2-25-3
連絡先: T) 03-3809-3326
e-mail: manjeong7@yahoo.co.jp
ホームページ: http://tabata.manmin.or.kr/

イエス・キリスト 川崎万民教会

担任: 平良 エリカ 伝道師
住所: 〒210-0818
神奈川県川崎市川崎区中瀬2丁目
12-8 グリーンヴァレ301号室
連絡先: T) 044-277-0178

イエス・キリスト 松本万民教会

担任: 伊藤 正明 牧師
伊藤 時子 伝道師
住所: 〒399-0033 長野県松本市笹賀 4343
連絡先: T) 0263-57-0003
F) 0263-57-0015
e-mail: mmcto4343@nifty.com

イエス・キリスト 舞鶴万民教会

担任: キム・マルコ牧師
キム・モニカ宣教師
住所: 〒624-0913
京都府舞鶴市字上安久 138
連絡先: T) 0773-75-5656
e-mail: osmanmin@hotmail.com

岡山万民教会

担任: 時國 裕博 牧師
住所: 〒701-2155 岡山市中原460
連絡先: T) 086-275-7276
e-mail: oky_777@blue.plala.or.jp

イエス・キリスト 八千代万民教会

担任: 青木 久尚 牧師
住所: 〒276-0045
千葉県八千代市大和田 670
連絡先: T/F) 047-483-3587
e-mail: hisanao@kyi.biglobe.ne.jp

イエス・キリスト 鉾田万民教会

代表: 飯塚 優
住所: 〒311-2102
茨城県鉾田市台濁沢1080-6
連絡先: O) 0291-39-9177
e-mail: surf9snow9@yahoo.co.jp

イエス・キリスト 東京万民教会

(東京万民宣教センター)
担任: 崔 乘蘭(チェ・ビョンナン)伝道師
リュ・ウンギョン伝道師
住所: 〒160-0004
東京都新宿区四谷一丁目8-8
佐伯千成ビル5-B
連絡先: T/F) 03-3356-9830
E-mail: imc@s9.dion.ne.jp

横浜鶴見福音教会(協力)

担任: 前田 實隆 牧師
住所: 〒230-0047
神奈川県横浜市鶴見区下野谷町
3-104-4
連絡先: T)045-521-5843